

平成 26 年 №48
春ひがん号

あきばさん

発行所
秋葉山 新井寺
272-0144
千葉県市川市新井
1 丁目 9 の 1
でんわ 047-357-8319
FAX 047-357-8399
mail: info@shinseji.jp
http://www.shinseiji.jp
郵便振替 00150-2-282968
発行人 新井寺

彼岸を前に

当山住持

先月二十四日、ロシアのソチで開催された雪と氷の平和のスポーツの祭典「冬季オリンピック」が閉幕した。今月八日には、パラリンピックが開幕し、九日間の熱戦が繰り広げられた。

オリンピック精神は「参加することに意義がある」であり、その原点は、世界平和のために、少しでも多くの国や地域の人々が参加することであると伝えられる。にもかかわらず、近年は、世界の多くの人々が、素晴らしい競技と合わせて、自国の選手たちが優秀な成績を残してメダルを獲得し、世界にアピールすることを無意識のうちに願ってはいないだろうか。多くの選手たちは、

何年もの間、日夜あらゆる練習や訓練を積み重ね、試練を乗り越えた暁に得たオリンピック出場である。また、多くのご縁の皆様のご協力と応援のもとに為し得た結果である。

したがって、私たちは、オリンピック競技に参加したすべての選手に対して、心から称賛することはあっても、非難することや過剰な期待を寄せるということは、もつてのほかだと思われる。一生懸命、必死で競技し、思うような結果を残すことが出来なかつた選手の心中は、この上もなく凶り知れないものがあつたはずである。そのことを思うと、応援する者の姿勢を厳に反省すべきである。一方で、メダルを獲得した日本の選手たちは、そのインタビューで「多くのご縁の皆様方のご支援のおかげです」と、感謝の言葉を繰り返していた。日本人の心の豊かさが、世界中に発信された瞬間であつたといえよう。

今月は、「暑さ寒さも彼岸まで」の彼岸月です。お彼岸は、オリンピックの意義と同じく、世界中の人々が皆、平和でありますよう、彼岸の世界に到る心の修養期間です。どうぞ、心新たに彼岸の世界を再認識され、ご先祖様の報恩供養に、ご自身の心の勉強に親しまれてください。



愛知専門尼僧堂と

伊勢神宮参拝の旅のご案内

昨年は、大本山永平寺をはじめ、北陸の曹洞宗にゆかりの深い寺院をお参りさせていただきました。本年は、当山の副住職が修行をさせていただきました「愛知専門尼僧堂」をおたずねすることになりました。さらには、昨年「式年遷宮（しきねんせんぐう）」が行われた伊勢神宮を参拝してまいります。

○ 愛知専門尼僧堂



愛知専門尼僧堂 紅梅とご本堂

愛知専門尼僧堂は、女性だけが修行する尼僧（にそう・女性僧侶）の修行道場です。

そのはじまりは、今からさかのぼること百十一年前、「急速に進展する時代に即応した尼僧の人材の打出に全力を傾倒したい」というひとりの尼僧様の尼僧教育にかける深い誓願であったと伝えられます。明治三十六（一九〇三）年、現在の春日井市に「私立尼学林（にがくりん）」が創設されました。「六畳二間」のご本堂が道場のすべてという清貧枯淡な中で、厳しい修行が行なわれていました。その後、大正元（一九一二年）に修行の充実を図るために、名古屋城下の北区柳原町に移転。名古屋大空襲で伽藍を焼失し、疎開生活を経て、

昭和二十二（一九四七）年、現在の千種区城山町に再建されました。

戦中の最盛期には、百名以上が安居（あんご・籍をおいて修行すること）し、創立からの百十年間に尼僧堂で修行した修行僧は、千名を超えるといえます。戦後は減少の一途をたどり、近年の安居者は、二十名前後。海外からの修行僧も増えているそうです。

尼僧堂では、「開かれた道場」として、日曜参禅会（月例）、女性緑陰禅の集い（七月・二泊三日）、摂心（せつしん・集中的に坐禅修行をすること）などが行なわれ、常に熱心な参禅者も集っています。また、人生を深く学びたいという一般の女性参禅者や出家（尼僧）志願者・一族のために「女性教室」を開設。在俗の姿のままに、一定の期間、修行僧と共に、一日の僧堂の行持にしたがって、仏法を学び、僧堂の生活を実体験することができます。

今回の団参では、青山俊董老師のご導師のもと、修行僧の皆さんにご先祖さまの追善供養をお勤めいただきます。また、青山老師のご講話を拝聴する予定です。

○ 伊勢神宮

伊勢神宮は、正式には「神宮(じんぐう)」といいますが、「神宮」とつくお社は多くありますが、「神宮」とのみ呼ばれるのは、伊勢神宮が唯一です。「内宮(ないくう)」と「外宮(げぐう)」を中心に、それぞれ別宮などの宮社があり、合わせて百二十五社を総称して「伊勢神宮」と呼ばれています。神宮参拝は、外宮からお参りするものが古来からのならわしとされています。

内宮のご祭神は、天照大御神(あまてらすおおみかみ)。五十鈴(いすず)川上に鎮座されています。皇室の御祖先神で、日本人の「総氏神」といわれる存在です。外宮のご祭神は、豊受大御神(とようけのおおみかみ)。丹波の国から天照大御神の食事をつかさどる



伊勢神宮 内宮
「宇治橋」と入口の鳥居

「御饌都神(みけつかみ)」として迎えられました。また、お名前の「うけ」とは食物のことで、五穀豊じよう、衣食住や産業のめぐみの守護神とされています。

伊勢神宮は、昨年 第六十二回目の「式年遷宮(しきねんせんぐう)」が行なわれました。神宮には、内宮・外宮ともそれぞれ東と西に同じ広さの敷地があり、二十年ごとに同じ形の社殿を交互に新しく造り替え、ご神体が遷されます。神様の御着物や宝物などもすべて新調されます。式年遷宮は、いつでも新しく、いつまでも変わらぬ姿を求め「永遠」をめざしたとされています。さらに、大御神が新しい新宮に遷座されることでより新しい御光が宿り、その御光をいただくことで、日本国の「イノチ」が新鮮になると考えられています。そこに、日本全体の若返りと「永遠の発展」への祈りが込められているそうです。

愛知専門尼僧堂と

伊勢神宮参拝の旅

十月三日(金)〜四日(土)

一泊二日の全行程バスの旅です

旅費 三万五千元

- ◎ 詳細は別紙をご参照ください。
- ◎ ご不明な点は、お気軽におたずねください。

おしゃかさまの誕生祭

「ブツダ・ジャンテイ」

今年も「ブツダ・ジャンテイ」が新井寺で開かれることになりました。「ブツダ・ジャンテイ」は、インドやネパールで行なわれているお釈迦様のご生誕を祝う行事です。駐日ネパール大使館とネワー国際フォーラムジャパン(NIFJ)共催のもとに行なわれる「ブツダ・ジャンテイ」は、日本で暮らすネパールのみなさんによるお釈迦様の誕生祭です。今年も、スマナサーラ長老がおいでになり、ご講話をくださることになっています。これまでに新井寺で拝聴したスマナサーラ長老のお話は、シンプルでわかりやすく、それ故に心に響いてくるものを感じました。また、昼食にはネパルススタイルのカレーライスが用意されます。興味のある方、参加を希望される方は、お気軽におたずねください。どなたでもご参加いただけます。みなさまのご参加をお待ちしています。

「ブツダ・ジャンテイ」

五月二十五日(日)新井寺において

午前十時ころから三時ころまで
会費 千円(昼食代をふくむ)

おはなの おはなし 「大菊」について



菊は日本を代表する花のひとつで、菊といえば、多くの日本人は「仏さま」をイメージすると思います。しかし、近年、品種改良がすすみ、スプレー菊、ピンポン菊、アナスタシアなどの西洋菊といわれる菊がお祝いの花として使われるようになりました。今年の『あきばさん』では、菊について私の知っていることをお伝えしてみたいと思います。まず第一回目は、「大菊」についてです。

大菊の色は赤・白・黄色の三色で、日本、中国、台湾などで栽培されたものが日本では出回っています。一見、どの菊も同じに見えますが、品種も様々で、日持ちも品種や産地によって異なります。

花屋秋葉山では、日持ちがよく、見た目も美しい、愛知県渥美半島の菊を通常は一本 百五十円、お盆・お彼岸・年末は一本 二百円で販売しています。

愛知県渥美半島は、日本一の菊の産地です。それぞれの季節にあわせて、良質の品種が栽培、出荷されています。日照時間を短くすると花芽をつけるという菊の性質を利用し、菊は「電照栽培」がされています。夜間を通して菊を電気でも照らすことで、花芽をつけるのを遅くし、出荷時期を調節しているため、現在では、一年を通して菊を購入することができます。

菊の水揚げ方法は、手で折り、たっぷり水の入った花瓶に入れることです。また、直射日光を避け、風に当たらない場所におくことで、長く持たせることができます。

花屋 秋葉山 店主しるす

花屋 秋葉山

○ 営業時間 九時～十四時

その他ご希望に応じて

お盆・お彼岸は十七時まで

○ 定休日 水・木

お墓参りのお花一对 (十本)

千五百円 (通常)

編集後記



今春、尼僧堂をおいとまして十年が過ぎました。過ぎてしまえばあつという間という気がしますが、十年という月日と思うと、それなりの重みを感じます。たった十年で何が出来るのだろうかと考える一方で、なかなか成長しない自分の未熟さを思うと、慚愧に堪えません。そして、この道のはるかなることを改めて感じていきます。

三十歳を過ぎたころ、ある老師に、「和尚さんの三十代・四十代は、いろいろなことを学び吸収し、和尚としても人間としても基礎力を養う時期です」と言われたことを思い出します。経験や知識の蔵が豊かになるが故に、大切なことをどこかに忘れてきてしまうこともあるのではないかと思います。培った経験や知識が修行や生きる道の妨げにならないように、謙虚さと初心を忘れることなく、ゆるがせない半歩一步をつみ重ねてまいりたいと思っています。また、その学びや経験が深く熟されていくような半歩一步でありたいと願っています。

今後とも、子ども和尚の成長をあたたく見守っていただければ有難く思います。時節柄、どうぞ、ご自愛ください。